こころの未来　54

鎌田　東二
上智大グリーフケア研究所特任教授
京都大名誉教授

東北被災地の現状

見通せない真の復興

5月の連休中に、写真家の須田郡司氏と共に東北の被災地を巡った。いつものように、福島県飯舘村や南相馬市から青森県八戸市までの太平洋沿岸部約千キロを走行しながら、主に神社仏閣と仮設住宅を回った。12回目の訪問になる。

1回目は2011年5月2日から5日までで、宮城県仙台市から岩手県久慈市まで須田氏と野宿しながら瓦礫の中をくぐり抜けた。その後も半年に1回、定点観測するように被災地の現状と問題と、そこでの生の声を確認してきた。

その過程で見えてきた問題点は大きく四つある。一つは放射能問題。二つ目は復興格差。三つ目は人口流出。四つ目は心の復興。

今回、被災地に向かう直前の4月に、避難解除地区に指定されたばかりの福島県浪江町で山火事が起こり、それによる放射能汚染拡大の懸念が広がった。政府はすぐに汚染拡大を否定したが、測定場所によってはかなり異なる結果が見られる。汚染と除染の問題は極めて深刻で、イタチごっこの様相も見せている。

例えば、「日本一美しい村づくり」に取り組んでいた飯舘村の至る所に除染土の盛り土があり、ある所では毎時1・14ミリシーベルトの線量があった。多くの児童が津波にのみ込まれて犠牲となった宮城県石巻市の大川小学校は毎時0・01ミリシーベルトで、その他の多くの地域が毎時0・1ミリシーベルトであったことを考えると、福島県の放射能問題はまだまだ解決の見通しが立たない深刻な事態だといえる。にもかかわらず、政府はいくつかの地区を避難解除に指定した。その根拠と未来への見通しに疑問を感じざるを得ない。

二つ目の復興格差については、例えば、宮城県女川町と岩手県大槌町とを比較してみると、著しい違いが分かる。昨年末、女川町に「ハマテラス」という市場がオープンした。町のウェブマガジンには「千年に一度の震災をのり越え、千年に一度のまちづくりに取り組む宮城県・女川町。2016年12月23日に、いよいよ地元市場ハマテラスがオープン。シーパルピア女川に続く、女川町のおもてなし拠点です。町の中心部がいよいよ息づき始めます」とある。

ハマテラスは、海の特産品の販売、海の幸満載の多彩な飲食、手作りオーガニック石けんの販売や製作体験など海をコンセプトにした8店舗が入る「おもてなし拠点」となる施設で活況を呈していた。女川港を望む、盛り土された小高い国道沿いの一角にある、おしゃれな復興商店街。

避難解除の政府に疑問

それに対して大槌町の復興はずいぶん遅れている。仮設住宅を訪ねると、半数近くの人がいなくなっており、その中には町外に出てしまった人もいる。震災当時は避難所としてよりどころとなった地元有数の大槌稲荷神社を参拝して近況を伺うと、壊滅的な被害を受けて氏子が離散しているので、丸6年がたっても復興の見通しは立たないという。当然のことながら社収も激減し、祭りの維持も困難を極める。かつては栄えた漁師町だった。時間がたてばたつほど深刻な現実を前に言葉を失ってしまう。

三つ目の人口流出では、いったん地元を離れた家族は、特に小さな子供がいると戻らないケースが多い。それによって、復興予算でハード面の建設が進んでも、人影がまばらで以前のように人々の元気な姿を見掛けることが少ない。そこで、人口流出が止まらない地区では、これから先どうなるのかという不安を抱えることになる。

四つ目の心の復興は、大変デリケートである。1年たち、3年たち、6年たって初めて表面化してくる心の傷や痛みがあるからだ。時間がたつことによって徐々に癒やされていくという意味の「時薬」という言葉がある。しかしそれも平穏な日常に支えられてのことである。日常の中に深い喪失と空洞を抱えている場合、逆に時間の重みに耐えきれなくなって、張っていた気が一挙に崩れていくこともある。時間は薬にも毒にもなる。状況次第では。

こんな被災地の現状を垣間見ながら、納得のいく十分な論議もないまま、「共謀罪」が衆議院を通過するという暴挙を見ていると、怒りで暗たんたる気持ちになった。

（阿南市出身）

＝月1回掲載

シニアが経済リード

それなりに

どんな価値 残すのか

小栗　康平
映画監督

封切りの映画館では、1日に4回の上映が一般的である。この中で観客数が最も多いとされてきたのが午後の1回目で、次が午前中、そして午後の2回目、最も少ないのが終わると9時近くになる最終回である。会社勤めの人たちが仕事を終えてから映画を見る、そういう習慣がなくなってしまったのだ。

「午前十時の映画祭」なるものがある。これは、新作の上映ではない。戦後の映画の黄金時代に作られた名作を、もう一度、映画館で見てもらおうと2010年から始まった。映画演劇文化協会、川喜多記念映画文化財団が主催していて、上映作品の選定もしている。いつもよりちょっと早く始まる、午前10時の、というところがミソで、今やシニア層を中心に、人気のシリーズとして定着している。

近年、この取り組みにもう一つ、大事な役割が加わった。上映設備のデジタル化が進んだため、フィルムで撮られた旧作を映画館で見ることができなくなってしまった。若い人たちはそれらを映画館で一度も見ることなく終わってしまう。それではいけない。今年は私の「泥の河」も選んでいただいた。1981年の作品である。旧作フィルムのデジタル化を促しているのである。

シニア層の消費動向が、一定の経済をリードする。これは映画に限らずある。大切なことは、そのリードした先で、どういう価値、文化を残そうとするのか、だろう。

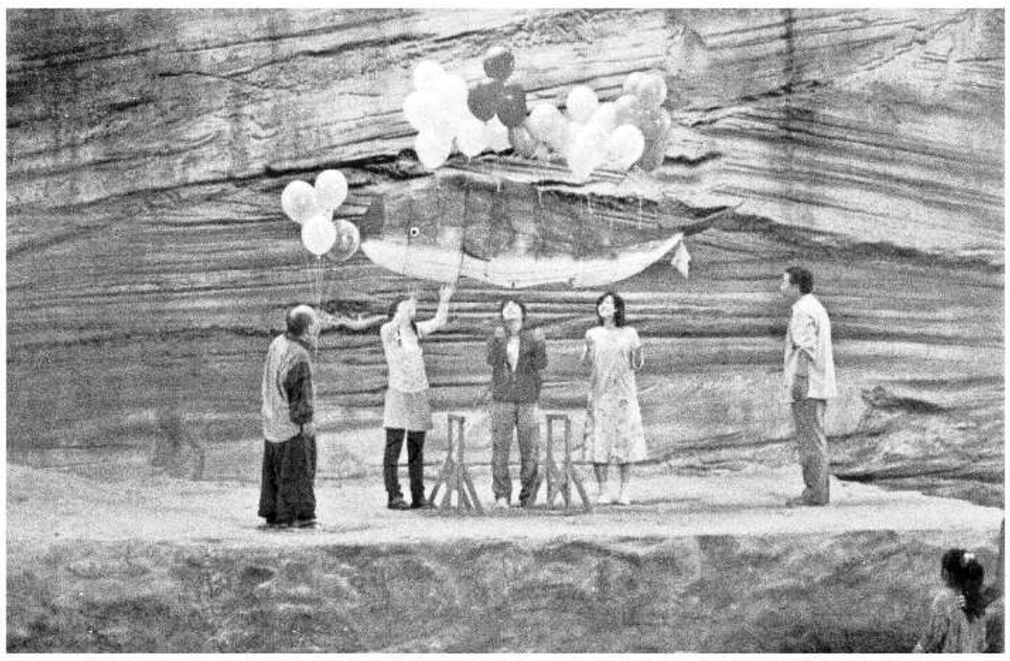
「午前十時の映画祭」では、若い人たちにも道を開くことになった。

話が変わる。毎月末の金曜日は、早めに仕事を終えよう、と政府、経済団体が呼びかけたのが「プレミアムフライデー」。消費を促し、長時間労働の是正にもつなげたいらしいが、ネーミングが先行して、単純に数値、数字をいじっているだけである。実効性にも乏しい。

現役を退いているシニア層には、関係ないと思われるかもしれないが、人ごとにしてはいけない。働くことは、根本において生き方の問題だし、文化の問題と言ってもいい。

会社を離れたからといっても、社会の根底とはもちろん結び付いている。

＝月1回掲載



「映画をファンタジーとして捉えてみたかった」という小栗康平監督の「埋もれ木」の一場面（ⓒ「埋もれ木」製作委員会、駒草出版ＤＶＤ「小栗康平コレクション」より）

文化

土偶からわら人形まで

栃木県日光市日陰地区で作られた「虫送りのわら人形」（栃木県立博物館蔵）

多彩な「ヒトガタ」の世界

栃木県で企画展

わら人形や流しびなど、「ヒトガタ」と総称される人の形を模したつくりものを集めた企画展「ヒトガタ～はらう・ねがう・のろう～」が、栃木県小山市立博物館で開かれている。

時代を超えて人々は呪術や祭祀にヒトガタを用いており、縄文時代の土偶から近年のわら人形まで、約150点を展示する。

生まれたばかりの子どもに災厄が降りかからないようにと身代わりとして枕元に置く「ホウコ」と呼ばれる人形や、豊作を願い毎年作られる虫送りのわら人形など、地域による違いが興味深い。

7月2日まで。問い合わせは同館〈電0285（45）5331〉。

【紙面編集】杉本宏文

美術展あんない

四国

■6月■

▽志賀理江子　ブラインドデート（10日～9月3日、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館）バンコクの恋人たちを撮影したシリーズをはじめ、写真を通してイメージを探求する志賀の世界。

▽Inspired－アイデアの源泉、イメージの継承（～25日、高松市美術館）名画を題材にした福田美蘭のユニークな作品などの常設展示。

▽マルク・シャガール展（～7月2日、高知県立美術館）叙事詩的の粋を感じさせる約80点。

関西

▽帝室技芸員の仕事〈時絵編〉（～8月13日、京都市東山区・清水三年坂美術館）明治時代に帝室技芸員に任命された柴田是真ら4人の作品。彼らの独創性と気品あふれる仕事を紹介。

▽織部の遺響　後水尾天皇と東福門院和子（～9月18日、京都市北区・古田織部美術館）後水尾天皇を中心とした寛永文化ネットワークを形成した公家衆や法親王の書、東福門院らが好んだ茶道具など。

▽ゴールドマン　コレクション　これぞ暁斎！世界が認めたその画力（10日～7月23日、京都市下京区・美術館「えき」KYOTO）幕末から明治期に活躍した絵師、河鍋暁斎の肉筆画、版画、絵日記など。

▽布の道標　古裂（こぎれ）に宿る技と美（17日～8月20日、京都市左京区・細見美術館）京呉服の老舗「ぎをん齋藤」7代目、現当主のコレクション。奈良時代の唐花文錦、中世の綾・錦、近世の辻が花など。

「帝室技芸員の仕事〈時絵編〉」展の出展作、白山松哉「切段模様蒔絵印籠」（清水三年坂美術館蔵）

▽フローラ　花々と美の饗宴（～7月31日、大阪市浪速区・山王美術館）ルノワール、キスリング、藤田嗣治らの花と女性を描いた作品。

▽HANDAIロボットの世界　形・動きからコミュニケーション　そしてココロの創生へ（～8月5日、大阪府豊中市・大阪大学総合学術博物館）レオナルド・ダビンチのアンドロイドをはじめ、大阪大のロボット研究の足跡を展示。

▽没後70年　北野恒富展　なにわの美人図鑑（6日～7月17日、大阪市阿倍野区・あべのハルカス美術館）大阪の女性たちを描き続けた日本画家。大阪では初の大回顧展。

▽第二幕　開け！絵巻（10日～7月30日、大阪府池田市・逸翁美術館）「大江山絵詞」（重文）をはじめ、絵巻と経巻を展示。巻物形式の作品の魅力を探る。

▽悉有仏性（しつうぶっしょう）　全てのものに仏性がある　佐藤慶之助展（～7月30日、西宮市大谷記念美術館）欧州滞在時の作品を中心に未公開資料も。大正、昭和に活躍した洋画家の足跡を振り返る。

▽ヨコオ・ワールド・ツアー（～8月20日、神戸市灘区・横尾忠則現代美術館）欧州、米ニューヨーク、インドなど横尾が旅して刺激を受けた世界を作品でたどる。

▽マイセンの美　いとしのフィギュリン　華麗なるセルヴィス（10日～8月27日、兵庫県篠山市・兵庫陶芸美術館）人形や食器セットなどを通して、19世紀のマイセンで生み出された鮮やかで優雅な世界を紹介。

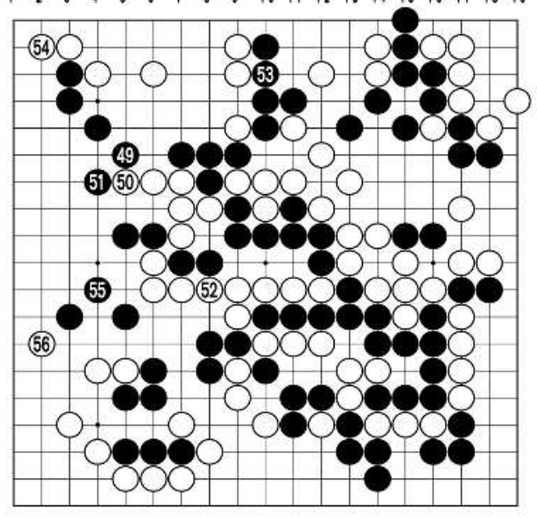
「生誕120年　伊藤慶之助展」の出展作、「フォントネ・オウ・ローズ」（1929年、西宮市大谷記念美術館蔵）

天元戦

第43期　1回戦　第13局

●九段　中野　泰宏
○七段　大橋　成哉
（先番6目半コミ出し）

【第7譜】　149―156



持ち時間　各3時間　　消費　●2時間57分　○2時間34分

決め手を逃す

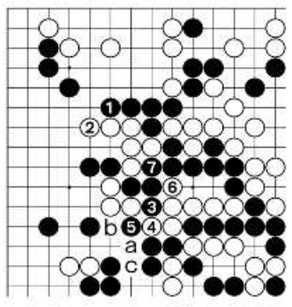
黒49のカケは大きな逸機であった。

「ここは参考図の黒1、白2を決めてから、黒3から5の出切りで決まっていました」と坂井解説者。

白6に黒7で、中央はこの瞬間、セキの形になってしまった。白52でついに白が中央を取り切り、ここからはヨセだ。冷静に考えれば、地合いはまだまだ黒優勢だが、本来、こうなる碁ではなかった。

黒51でも52からの出切りが成立していたが、中野は、「この筋を全くうっかりしていた」と言う。

参考図



白52を決めてかる。これなら黒7で白投了でした」と坂井

黒b、白c　白52でついに白が中央を取り切り、ここからはヨセだ。冷静に考えれば、地合いはまだまだ黒優勢だが、本来、こうなる碁ではなかった。

（高岳周平）

女流王位戦

第28期

挑戦者決定戦

●三段　本田小百合
○二段　伊藤　沙恵

【第7譜】（図は○2八竜まで）

持ち時間　各3時間
消費　●2時間59分　○2時間31分
指し手　100手

●4七銀1　○8八歩成3
●5三成桂　○7八と
●同　金　○1九竜1
●5九金1　○5五香
まで伊藤女流二段の勝ち

伊藤が挑戦

残り3分の本田は1分を使い、3八の銀を手にした。その際に駒を落としてしまい、「失礼」とわびてから●4七銀。この瞬間、本田の手から5年ぶりのタイトル挑戦の夢もこぼれ落ちてしまった。

○8八歩成で挟撃態勢に。○1九竜から●5五香と迫ったところで、本田が投了した。

○6五桂の追撃があるので受けが利かない。戻って、図では●6三成桂と入れば勝負はどう転んだか分からなかった。○3八竜には●7二金○同飛●5一馬○同玉●7二成桂と詰めろをかける。○7五角（！）が詰めろ逃れの詰めろだが、●5六飛で激戦だ。

チャンスを逃した本田は「もう少し考えるべきだった」と感想戦で悔やみ、終局後は足早に対局室から去った。

2度目のタイトル戦挑戦を決めた伊藤は、「力を出し切りたい」と5番勝負の抱負を笑顔で語った。勝者と敗者は一瞬で決まる。勝負の残酷さを改めて感じた。（大川慎太郎）

（図は終局○5五香まで）